

平成2年度病害虫防除基準（水稲）の主な新規採用
農薬とその使用法

（農試 環境部）

1 背景とねらい

病害虫防除において、最近の栽培法の多様化、病害虫の発生動向の変化などから、これらに対応した的確な防除法の開発とその実用化が望まれている。

新規登録農薬等について検討した結果、本県の病害虫発生様相、防除効果、及び安全性の面からも適用性が高いと考えられる薬剤を防除基準に採用したので、その使用方法、薬剤の特性等について解説して、指導上の参考に供する。なお、取り上げた薬剤は、新規化合物及び病害虫防除体系上重要と考えられるものを対象とした。

2 技術の内容

平成2年度病害虫防除基準に新たに採用した主な農薬、及びその対象病害虫は、以下のとおりである。また、その使用法と使用上の留意点は別表に示した。なお、トリフルミゾール剤及びペフラゾエート剤については、別途指導上の参考事項としたのでここでは省略した。

- | | | |
|-------------------------------|-------|----------------------|
| (1)トリシクシラゾール・メタキシル剤とTPN剤の混用灌注 | …………… | 苗立枯病 |
| (2)トリフルミゾール剤 | …………… | ばか苗病他（種子消毒） |
| (3)ペフラゾエート剤 | …………… | 〃 |
| (4)オキシリニック酸剤 | …………… | もみ枯細菌病（苗腐敗） |
| (5)トリシクラゾール剤 | …………… | いもち病（葉いもち） |
| (6)フルトラニル剤及びその混合剤 | …………… | 紋枯病 |
| (7)エトフェンプロックス剤 | …………… | イネズソウムシ、イネビボソウムシ同時防除 |
| (8)シクロプロトリン剤 | …………… | 〃 |
| (9)カルタップ剤 | …………… | 〃 |

3 指導上の留意事項

別表に示した。

4 当該事項にかかる試験研究課題名

病害虫防除新農薬の効果

別表 平成2年度病害虫防除基準に採用した主な新農薬と新しい使用方法

農薬の種類 [農薬名](成分量)	対象病害虫	使用法	使用上の留意点
ヒドロキシキリル・メ タキシル剤[チガレエス 液剤](30%・4.0%) とTPN剤[ダゴニル10 00](40%)の混用	苗立枯れ	防除時期：播種時 防除方法：育苗箱当り、各剤 0.5mlを水0.5ℓに希釈して 灌注する。	1. 播種前に苗立枯れ防除薬剤を床土に 使用しなかった場合の対策として行う 2. ヒドロキシキリル・メタキシル液剤とTPN・ ダゴニル水和剤(ダゴルト水和剤)の播種 時同時灌注は、葉害を生じるので行わ ない。
オキシロニック酸 剤 [スターナ水和剤] (20%)	もみ枯細菌 病(苗腐敗)	防除時期：播種期(種子消毒) 防除方法 ①湿粉衣法：ばか苗病、い もち病、ごま葉枯病防除用種 子消毒剤所定量と本剤の乾燥 種子重の0.5%量を併せて湿粉 衣する。 ②低濃度長時間浸漬法(大 量種子消毒機による消毒済種 子のみ対象)：200倍液に24 時間浸漬する。	1. もみ枯細菌病による苗腐敗の発生は 年次変動が大きいので、薬剤処理は種 子の保菌状況に関する情報等を参考に 行う。 2. オキシロニック酸剤は、もみ枯細菌 病以外には効果がないので、必ずばか 苗病等を対象とした種子消毒剤との同 時防除を行う。
トリシクラゾール 剤 [ビームS粒剤] (4%)	いもち病 (葉いもち)	防除時期：移植前日～当日 防除方法：育苗箱あたり80g ～100gを施用する。	1. ササニシキ作付地帯で例年葉いもち が早期に多発するところでのみ行う。 2. 育苗箱施用だけでは、葉いもちの防 除効果は不十分である。7月下旬から 本田を巡回し、発生が目立ったら直ち に茎葉散布による防除を行う。 3. 施用にあたっては「育苗箱施用上の 留意事項」を厳守する。
フルトラニル剤 [モンカット粒剤] (7%)	紋枯病	防除時期：出穂25～15日前 防除方法：10a当り4kgを水 面施用する。	1. 紋枯病の病勢進展が活発になる出穂 直前以降の施用では効果が低下するの で、施用時期に注意する。 2. 施用後3～4日は湛水状態(浅水) にしておく。
[フジワンモンカ ット粒剤] (イブダチオン 12%) (フルトラニル 7%)	いもち病 (穂いもち) と紋枯病の 同時防除	防除時期：出穂20～15日前 防除方法：10a当り4kgを水 面施用する。	
イトフェンロックス剤 [トロン粒剤] (1.5%) シクロロリン剤 [シクロールU粒剤] (2.0%)	イヌスズウミ とイネビボリ ムシの同時 防除	防除時期：6月上旬 防除方法： イトフェンロックス粒剤 10a当り2kgを水面施用す る。 シクロロリン粒剤 10a当り1.5kgを水面施用 する。	1. イヌスズウミの圃場侵入盛期(5月下 旬～6月上旬)で、イネビボリムシ産卵盛 期～ふ化盛期(6月上旬～中旬)に使 用すると効果が高い。両害虫の発生時 期は地域によって異なるが、概ね6月 中旬が同時防除の適期である。 2. 両剤とも蚕に対して毒性が強いので 取り扱いには十分注意する。
カルタップ水溶剤 [バダン水溶剤] (50%)	イヌスズウミ とイネビボリ ムシの同時 防除	防除時期：移植時 防除方法：10a当り200～300g をペースト肥料と混和し側 条施肥田植機で施用する。	1. 薬剤とペースト肥料との混和は、移 植当日に行う。薬剤を等量の水に解か し、ペースト肥料とよく混和する。 2. 他の殺虫剤の箱施用は行わない。 3. 両剤とも蚕に対して毒性が強いので 取り扱いには十分注意する。

5. 試験成績 省略